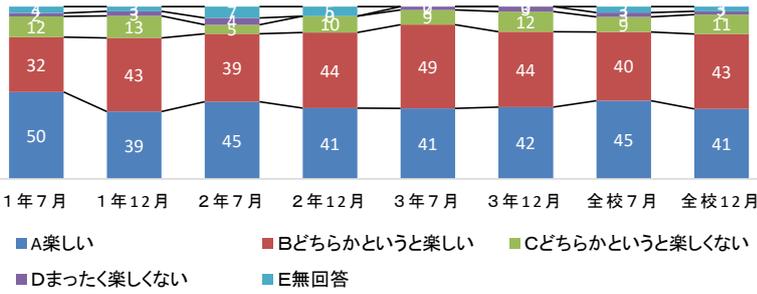


令和2年度 宇部市立桃山中学校 2学期学校評価集計結果(生徒用1, 2学期の比較)

1年生-110名 2年生-73名 3年生-103名 計286名集計(全校生徒299名)

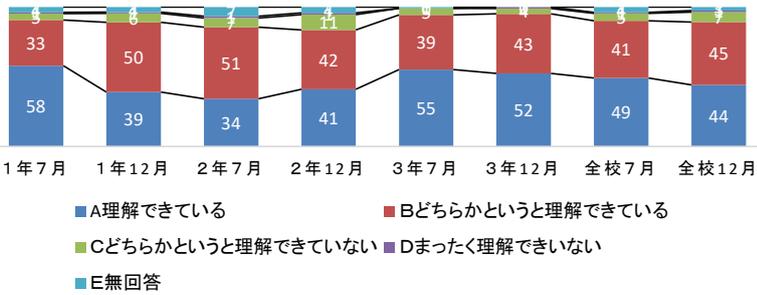
1 学校に行くのが楽しいですか



・「楽しい」、「どちらかという楽しい」が、1学年は1, 2学期で変わらず82%、2学年は84%から85%、3学年は90%から86%で、全校では84%で1% (約3名)減少している。全学年とも肯定的な回答が80%を超えていることは、大変好ましい結果である。

・学校運営の根幹に関わるこの項目は、100%になるよう、さらに努力していきたい。

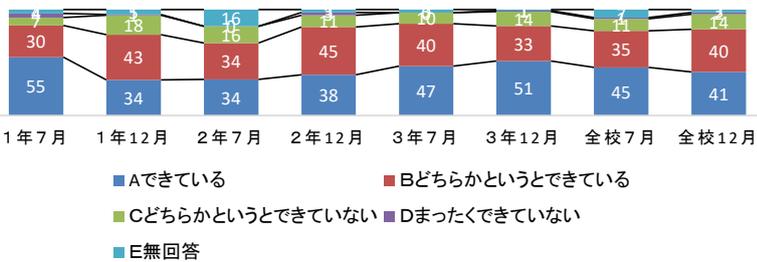
2 グループの学習はよく理解できていますか



・1学期に比べると、全校の値が1%下がってはいるが、肯定的な回答が89%と、約9割の生徒が「グループの学習は理解できている」と回答していることは大変好ましい結果である。

・今後も、効果的なグループ学習を実践し、新学習指導要領が求める「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進する必要がある。

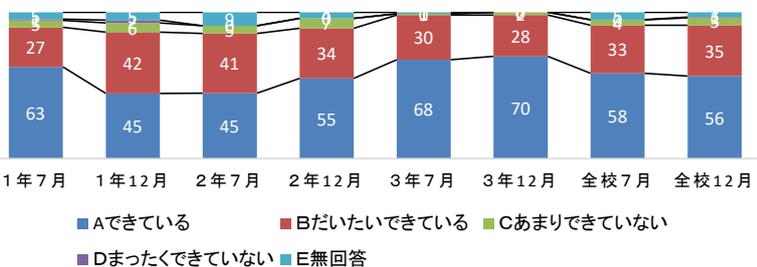
3 グループの学習は自分の考えを伝えることができますか



・全校では、肯定的な回答の割合が80%から81%に上昇しており、大多数の生徒が自分の考えを伝えることができていると回答している。

・全校の14%の生徒が否定的な回答をしており、1学期に比べても増加している。生徒全員が自分の考えを伝えることのできる授業や安心して「わからないから教えて」と言える学校風土を醸成する必要がある。

4 グループの学習は、友達の発表を考え方からしっかり聴くことができますか

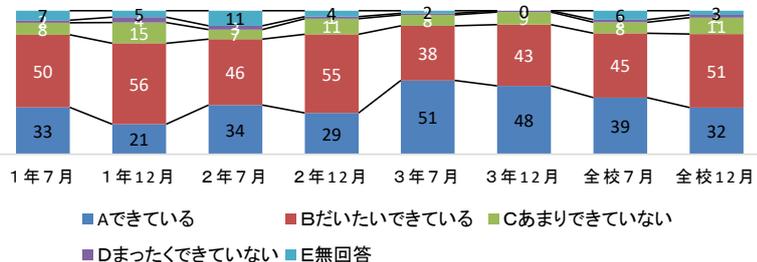


・全校では91%の生徒が肯定的な回答をしている。

・「できている」の割合が、学年が上がるごとに増加しており、3学年にいたっては7割である。

・友達や教師の話を聴くときには、手を止めるとともに体を発言者の方に向けてしっかり聴くようにしたい。さらに、他者の発言を聴いた上で、「なぜ」、「わからない」がお互いに言い合える関係づくりを高めていきたい。

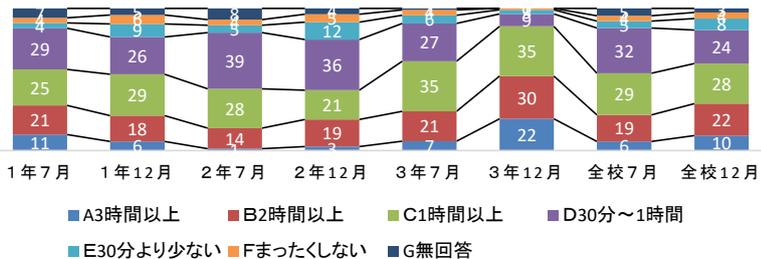
5 授業での学習課題に興味をもち、意欲をもって授業に取り組んでいますか



・全校において、肯定的な回答が84%から83%へと減少してはいるものの、8割を超える生徒が意欲をもって取り組んでいるとの回答をしている。

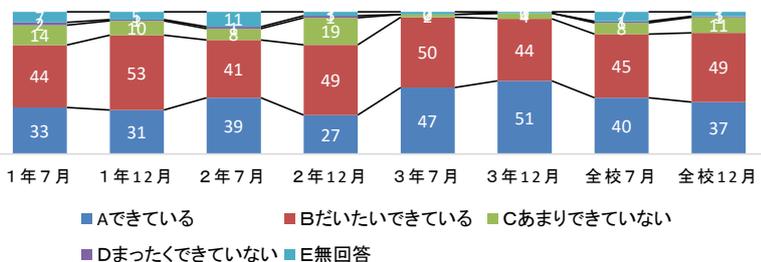
・全校で13%の生徒が興味や意欲をもつことができていると回答している。主体的、対話的で深い学びの授業実践により、全生徒の学習意欲を高めていきたい。

6 普段(月～金曜日)家庭で、自分から机について取り組む1日あたりの勉強時間はどれくらいですか。



- ・3年生では3時間以上が7%から22%と増加している。受験に向けたラストスパートの結果と思われる。
- ・2年生では、1時間未満が50%を超えており、家庭学習の時間が不足している生徒が半数以上と決して低い値ではない。「30分より少ない」、「全くしない」との回答も9%から17%と増加している。
- ・1年生では、「3時間以上」、「2時間以上」が減少しており、「1時間以上」は増加しているものの、「30分より少ない」、「まったくしない」が増加していることから、全体的に家庭学習の時間は減少しているものと思われる。
- ・学力向上の鍵は、積極的な授業への取組と継続的な家庭学習の2本柱である。自主学習ノートの活用、メディアコントロール等により、一人ひとりの家庭学習習慣の確立が必要である。

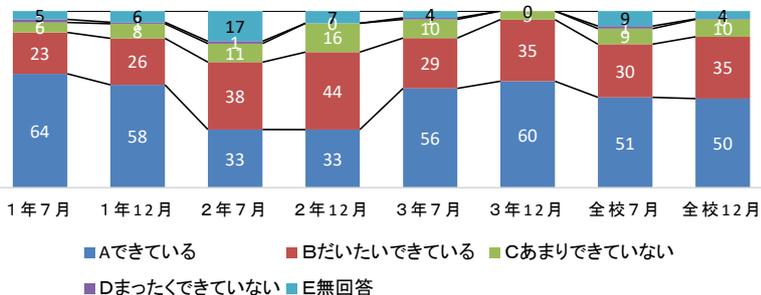
7 自問清掃では、私語をがまんし、自分と向き合うことができているか



- ・全校で86%の生徒が肯定的な回答をしている。「心みがき」の取組の成果と捉えることができる。

- ・2年生において、「あまりできていない」との回答が8%から19%へと増加しており、誇りを高めるために、生徒一人ひとりの自問清掃に対する意識をさらに高める必要がある。

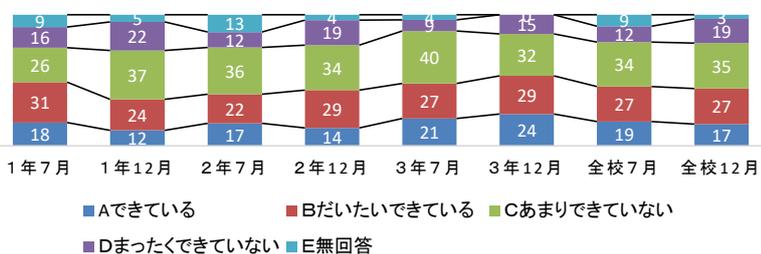
8 学校や教室などの整理整頓を心がけていますか



- ・全校で85%の生徒が肯定的な回答をしている。

- ・学校内外の整理整頓が、学習に集中できる環境を整え、落ち着きのある学校につながるという意識を全生徒にさらに浸透させたい。

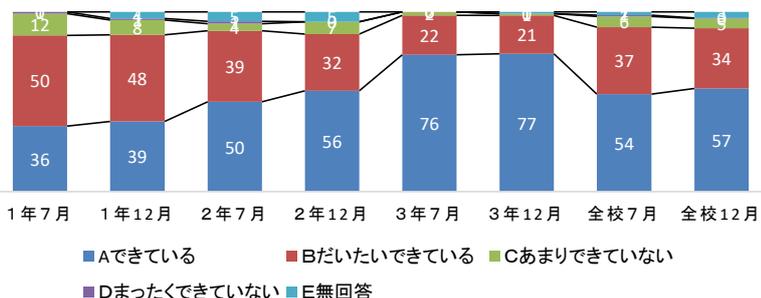
9 自分から進んで地域の行事やボランティア活動に参加していますか



- ・全校の44%の生徒が肯定的な回答で、昨年度同時期の51%から減少している。新型コロナウイルスによる地域行事等の中止等が影響していると思われる。

- ・地域行事やボランティア活動に参画する生徒はリビート率が高く、そこから、さらに全校生徒を巻き込み、拡充していくことが望まれるが、今後の状況も見通せないため、校内でのボランティア活動を増やしていく必要があると思われる。

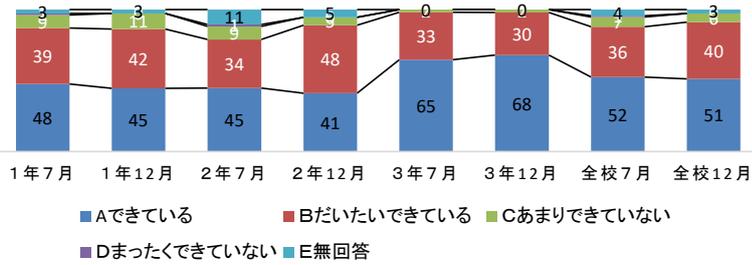
10 2分前着席、1分間黙想ができていますか。



- ・全校の91%の生徒が肯定的な回答をしており、どの学年も定着率が高い。

- ・全校体制で授業に向かう姿勢を強化し、小学校も巻き込んだ共同実践により、小中一貫教育を一層推進していきたい。

11 時と場に応じた人を思いやる言葉づかいができていますか

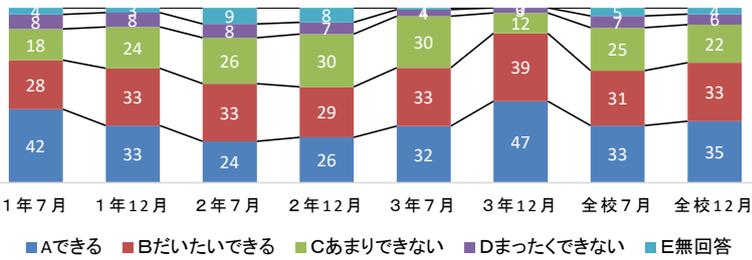


・全校では91%の生徒が肯定的な回答をしており、いじめの根絶に結びつくことを期待する。

・時と場に応じた人を思いやる言葉づかいは、豊かな人間関係づくりの基本であり、生涯大切にしてほしい。

・今後も、生徒と教師が一体となり、規律があり、思いやりの心にあふれた学校づくりに努めたい。

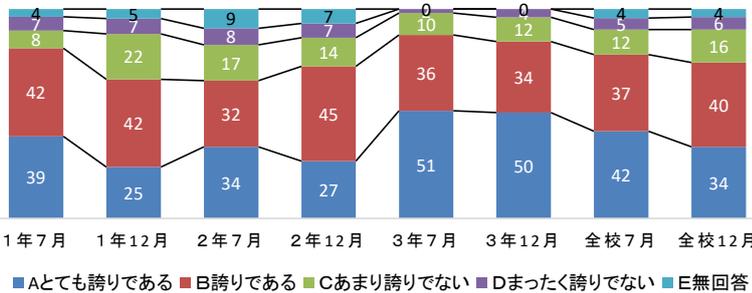
12 将来の夢やつきたい職業など、志を話すことができますか



・全校では68%の生徒が肯定的な回答をしており、進路決定の時期にある3年生の「できています」の割合が最も高い。

・1年生の「できています」の割合が低下しており、2年生の値が低いことから、キャリア教育を意図的・計画的に実施し、一人ひとりの夢の実現に向け、一層力を入れていかなければならない。

13 桃山中に誇りをもっていますか



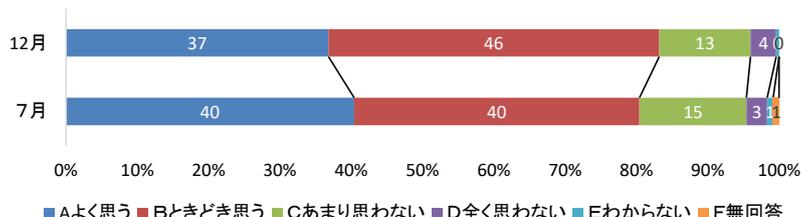
・桃山中校区では、小中一貫教育推進のため、小中一貫教育目標として、「誇りをもてる児童・生徒の育成」を掲げている。したがって、この項目は、一貫した教育目標がどれだけ生徒に実感できているかを問うものである。

・全校では74%の生徒が「とても誇りである」「誇りである」としており、昨年度の同時期から10%低下している。1年生の67%が各学年の中で一番低い結果となっている。

・全校生徒が桃山中に誇りを持ち、卒業後は、コミュニティ・スクール、地域協育ネットの担い手となり、桃山中校区を支える人材に育ってくれることを願っている。

令和2年度 宇部市立桃山中学校 2学期学校評価集計結果(保護者用 1, 2学期の比較)

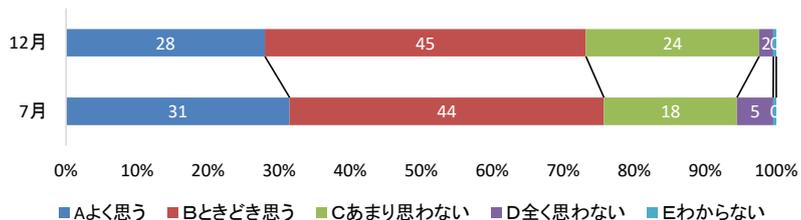
1 学校に行くのを楽しみにしている



・1, 2学期ともに、「よく思う」「ときどき思う」とする保護者が80%を超えており、ほとんどの保護者が、子どもたちは学校に楽しく通っていると受け止めている。

・生徒評価においても、80%を超える生徒が登校に楽しみを感じており、保護者とほぼ同率である。

2 学校の学習に意欲的に取り組んでいる

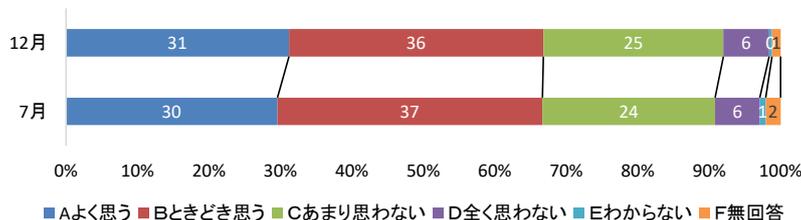


・73%の保護者が「よく思う」「ときどき思う」と回答しており、多くの保護者が子どもたちの学習意欲を感じている。

・「あまり思わない」「全く思わない」との回答が26%あり、学習意欲に満足していない保護者の割合も高い。

・効果的にグループ学習を導入するなど、新学習指導要領が求める「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善をさらに推進したい。

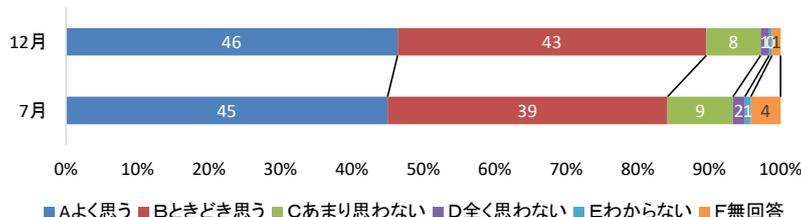
3 自ら机について家庭学習の習慣がついている



・肯定的な回答が67%で、「あまり思わない」「全く思わない」などの否定的な回答が約30%であることから、家庭学習習慣の定着が急務である。

・メディアコントロールの指導を徹底するとともに、家庭学習の仕方をわかりやすく提示するなど、質・量ともに充実した学習となるよう支援していく必要がある。小中一貫教育の取組とともに推進を強化したい。

4 規律ある学校生活を送っている

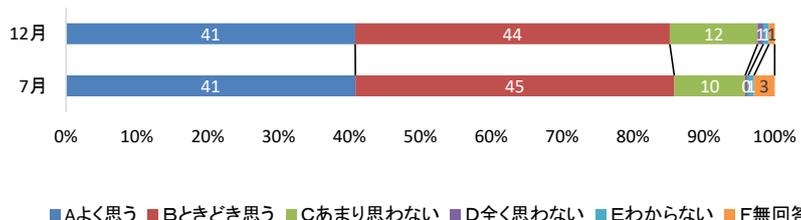


・「よく思う」「ときどき思う」を含めると89%の保護者が規律ある生活ができているととらえている。

・約1割(約30名)の保護者が否定的な回答をしている。

・生徒会主体の「あ・じ・み・そ・ことば」の推奨により、規律のある学校生活の実現を図っている。新生徒会の取組により、さらに効果が高まることを期待する。

5 時と場に応じた行動や人を思いやる言葉づかいができる

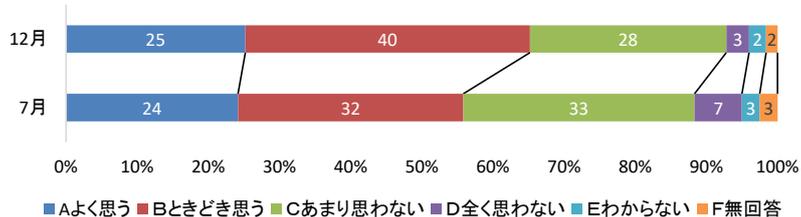


・保護者の85%が時と場に応じた言動ができているととらえている一方、「あまり思わない」「まったく思わない」が13%あり、他者への言動を課題ととらえている保護者の割合も高い。

・思いやりの心はいじめの防止、根絶に直結する。学び合いのある授業や、道徳の授業等、学校の教育活動全体を通して育成することが重要である。

・ハッピーライフ運動とハッピー桃太郎運動の活性化により、多様な人と関わる機会を増やし、コミュニケーション能力を高め、豊かな人間関係づくりができる生徒を育成していきたい。

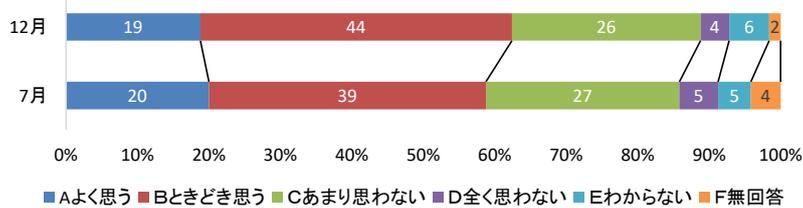
6 将来の夢やつきたい職業など自分の志を話することができる



・肯定的な回答が65%で、家庭において、将来の夢や進路について親子で話す機会をぜひとも増やしてほしい。ただ、1学期から比較すると、約10%上昇していることは好ましい結果である。

・学校においては、小中一貫教育により9年間を見通して生徒に夢をデザインさせたり、地域の人々との交流からコミュニケーション能力を高めたりする取組やキャリア教育の充実を図りたい。

7 桃山中に誇りをもっている

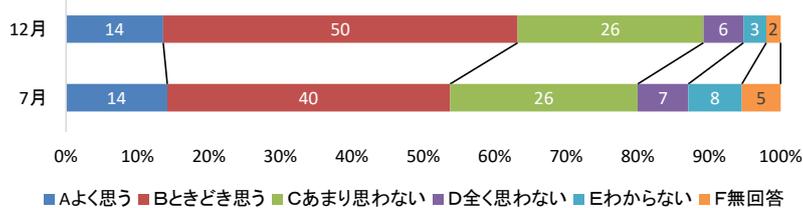


・「よく思う」「ときどき思う」が63%で、生徒の74%に比べてやや低調である。生徒の感じる「誇り」と、保護者の期待する「誇り」との間に齟齬が生じている結果かもしれない。

・「あまり思わない」「まったく思わない」が30%で、子どもが誇りを実感できていないとする保護者の割合が高い。

・「誇りのもてる生徒の育成」は小中共通した教育目標である。本校の特色ある教育活動であるハッピーライフ運動、ハッピー桃太郎運動、自問清掃等の取組を充実させることで、生徒が誇りをもつことへの意識を一層高めていきたい。

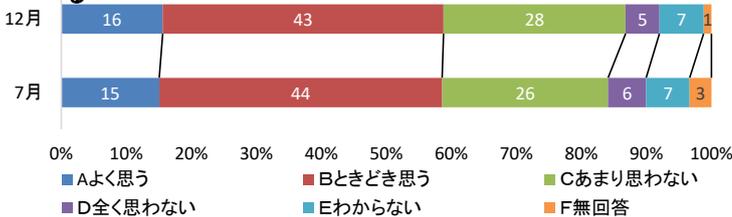
8 9年間を見通した小中一貫教育が推進できている



・「よく思う」「ときどき思う」を含めると、64%の保護者が小中一貫教育の成果を感じている。

・「あまり思わない」「まったく思わない」が32%で、小中一貫教育の取組に課題を感じている保護者もある。また、「わからない」とする保護者が3%あり、取組の充実はもとより、新川小、小羽山小と協力して、小中一貫教育の充実と取組状況の周知を図っていきたい。

9 地域とともにある学校づくり(コミュニティ・スクール)ができている

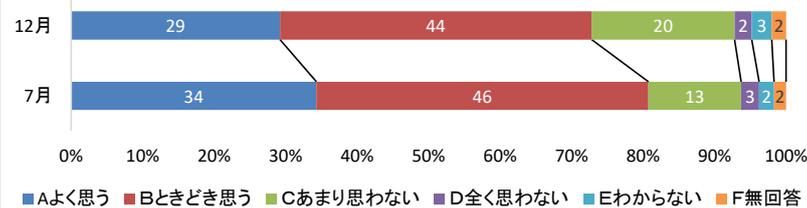


・「よく思う」「ときどき思う」を含めると59%の保護者がコミュニティ・スクールの取組に一定の成果を感じているが、昨年度同時期の64%と比べると少し減少している。新型コロナウイルスによる影響が要因にあると思われる。

・「あまり思わない」「全く思わない」が33%で、「わからない」が7%あることから、取組の周知をさらに促進する必要がある。

・コミュニティ・スクールは、学校運営・学校支援・地域貢献の三位一体となった取組が期待されている。生徒、教職員、保護者、地域がより積極的な参画意識をもち、活動の充実を図っていくことが重要である。

10 学校だよりやホームページ等により、学校の情報が発信されている



・73%の保護者が「よく思う」「ときどき思う」と回答しており、1学期末の80%より減少している。

・「あまり思わない」、「全く思わない」が22%あり、学校だより、学年だより、メール配信、学校ホームページ等により、学校情報の発信をさらに促進したい。